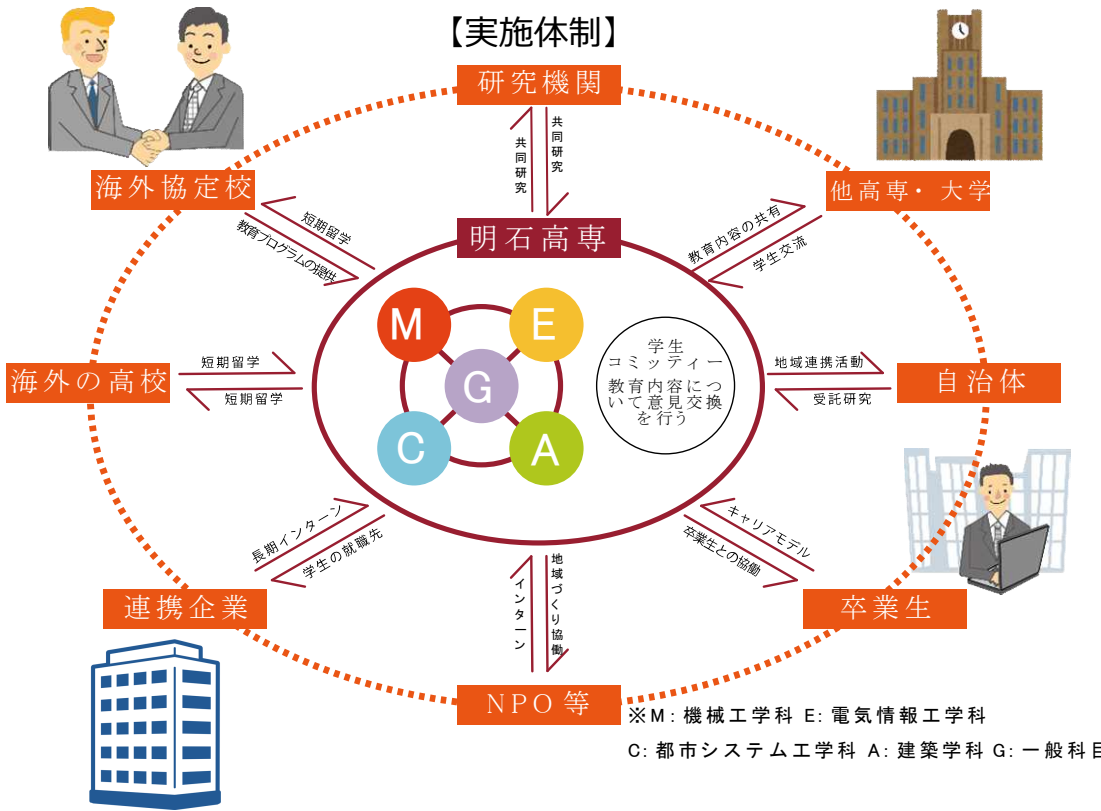


【取組の目的】

社会変化に対して、受け身の対応ではなく、自らの意思を持って他者と協働しながら学び、自らの頭で考えられるイノベーション人材を15歳から育成する。そのため、入試制度の改革とこれまでの知識量の伝達を重視する教育から学生の興味関心の喚起、必要な知識の自己修得力、思考力、実践力を総合的に育てる教育プログラムに変革する。

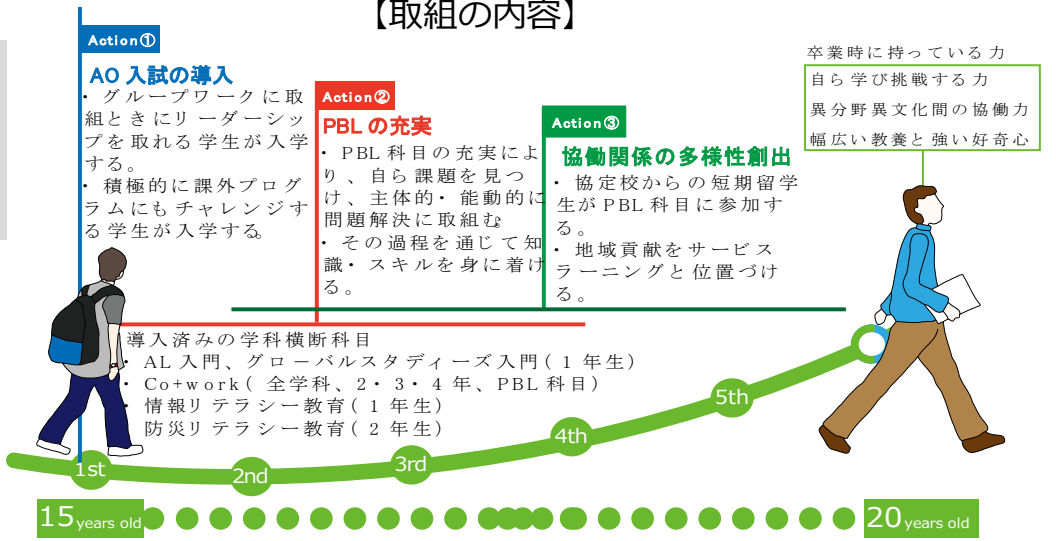
【実施体制】



【成果指標】

- PROGテストによる3年次学生（18歳）のコンピテンシー総合得点の向上：
3.04（H28）→ 3.5（H30）※大学の工学部学生の平均値3.47を上回る水準
- 国際協働プログラムへの参加者数の増：47名（H28）→ 100名（H30）
- 海外インターンシップ参加者数の増：3名（H28）→ 28名（H30）

【取組の内容】



【工程表】

	2017年(H29) 4月～8月	2017年9月 ～2018年3月	2018年(H30) 4月～8月	2018年9月～ 2019年3月
AO入試の導入	AO入試実施高専・大学の調査	AO入試の要項案の策定等準備	AO入試の要項の決定・公開	AO入試の実施
PBLの充実	PBL先進事例調査	グループ学習教室の整備	Co+workの改善改良案作成	PBLを基軸としたカリキュラムの改善
協働関係の多様性創出	・夏季休業を利用した海外での協働PBLの実施	・海外からの短期留学生との協働PBL ・春季休業を利用した海外での協働PBLの実施	・夏季休業を利用した海外での協働PBLの実施	・海外からの短期留学生との協働PBL ・春季休業を利用した海外での協働PBLの実施

【第4期中期目標期間への展開(見込み)】

- グローバル化に対応できるイノベーション人材を15歳という低年齢から育成し、社会問題解決に貢献できる卒業生を多数輩出する。
そのため、AO入試実施と検証およびPBLを基軸としたカリキュラムの改善を行う。